

で連携は取ってますけど、やはり糸魚川の事情をしっかりと共有していただいて、大糸線を盛り上げていただきたいと思います。そして、先ほども質問の中でもありましたけど、市民の方に盛り上げてもらうということ、国への国策としての路線だということを働きかけてください。

以上で終わります。

○議長（古畑浩一君）

和泉議員の質問が終了いたしました。

ここで、14時10分まで休憩いたします。

〈午後2時01分 休憩〉

〈午後2時10分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

引き続き、一般質問を行います。

次に、利根川 正議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。〔6番 利根川 正君登壇〕

○6番（利根川 正君）

利根川 正です。1回目の質問をお願いします。

1、久保田市長の重点政策について。

5つの重点政策と縮充について、お伺いします。

(1) 久保田市長の基本理念には、市民の声で新しい糸魚川をつくる。その重点政策として、第一に医療、福祉を上げられています。

糸魚川市の医療体制を守り、糸魚川総合病院や地域医療施設の維持強化を固くする、新潟県の広域医療方針に符合しながら、安心できる医療を確保するとありますが、以下の点について伺います。

① 糸魚川市の医療体制をどのように考えているか。

② J A新潟厚生連糸魚川総合病院について、どのように考えているか。

③ 県の地域医療構想は、医師も施設も拠点化するとしているが、糸魚川市において、救急医療体制をどのように考えているか。

④ 福祉において、施設の維持と介護福祉士の減少をどのように考えているか伺います。

(2) 重点政策の第二に上げている教育で、子供たちが学びやすい環境を整え、学校再編や部活動の地域展開を推進し、少子化を見据えた効率的で質の高い教育体制を構築するとありますが、以下伺います。

① 学校再編で小学校をどのように考えているか。

② 保育園の民営化について、考えを伺います。

- ③ 部活動の地域移行についての考えを伺います。
 - ④ 少子化を見据えた効率的で質の高い教育体制の構築とは、具体的にどのようなことか伺います。
 - ⑤ 駅北子育て支援複合施設建設の見直しとは、市民は中身を見直すと思っている方と、建設自体を見直してそこには建てないと思う方がいるが、市長の考えを伺います。
 - ⑥ 建物ができるまで、固定化した子育て支援センターの仮施設を造るべきと思いますが、市長の考えを伺います。
- (3) 重点政策の第三に上げている経済活性化で、第一次産業を基盤として、地域資源を最大限に活用して経済を活性化する、また観光資源の整備や、ふるさと納税の活用により、特定資金源を確保しますとありますが、以下伺います。
- ① 第一次産業で農業、林業、水産業が糸魚川の代表ですが、どのように活性化していく考えか。
 - ② 特に今米が深刻な問題となっており、高齢者や子育て世帯は、安い米が手に入らない現状で、市として対策を打てないか。
 - ③ 観光資源の整備とは、具体的にどのようなことを言うのか。
 - ④ ふるさと納税の活用により、特定資金源の確保とありますが、強化が必要と考えます。特に米の販売が全国で好調で、糸魚川市も契約して在庫を確保してもらいたいが、考えを伺います。
- (4) 重点政策の第4に上げている地域の特徴を生かすでは、糸魚川市の3地域を中心に、観光資源や伝統文化を活用して発展させ、宿場町としての歴史を引き出しながら、交流人口の増加を目指すとありますが、以下伺います。
- ① 糸魚川では新幹線、えちごトキめき鉄道、大糸線の活用によるにぎわいの創出とありますが、どのような考えがあるか。
 - ② 地元経済界の地力アップと観光資源の最大化を通じた交流人口の増加とありますが、具体的にどのように増加させるのか。
 - ③ 美山周辺の再開発や塩漬け状態の施設の最適化とありますが、美山の再開発はどのような構想を持っているのか、また、塩漬け施設とは、どこの施設で、どうする考えか。
 - ④ 能生では相撲のまち、水産のまちとしてのブランド拡張を掲げていますが、具体的な考えはあるのか。
 - ⑤ 力士育成と交流の場を提供する新施設の構想とありますが、建物を建設するのか伺います。
 - ⑥ 青海ではピアパークや親不知を中心とした観光資源の充実を上げていますが、どのような考えでいるか。
 - ⑦ 産業のまちとしての機能充実とありますが、具体的にどのように充実するのか。
- (5) 重点政策の第5に挙げている災害対応と安全で、防災対策を強化し、災害時の相互支援体制を実現、地域の連携を深め、安全で安心できる地域を構築しますとありますが、各災害に対してどのような考えをお持ちか伺います。
- ① (仮称) 上越・糸魚川沖地震では、どのような被害を想定して対応するのか伺います。

- ② 先月、姫川・関川総合水防演習がありましたが、水害等の対策について考えを伺います。
- ③ 災害時の相互支援体制の実現とありますが、具体的な支援体制を伺います。
- (6) まちづくりの新しい概念、「縮充」について。
- 縮小と充実から説明されていますが、その進め方について伺います。
- ① 権現荘は民営化となりましたが、長者温泉ゆとり館について民営化を進められないか伺います。
- ② 市内に2つのスキー場がありますが、シーサイドバレースキー場の老朽化が見られます。今後を見据えた考えはあるか伺います。
- ③ 糸魚川市教育相談センターの改修検討は進んでいるか伺います。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

利根川議員の質問にお答えいたします。

1点目の1つ目につきましては、市医師会などの関係機関と連携し、一次・二次救急医療体制をはじめとした医療提供体制が確保できているものと捉えております。

2つ目につきましては、市内唯一の総合病院として急性期医療を担うとともに、回復期、慢性期、在宅医療まで幅広く市民を支える、なくてはならない病院であると考えております。

3つ目につきましては、当市の地理的条件から、今後も、市内で一定程度完結できる救急医療体制の確保が必要であると考えております。

4つ目につきましては、施設の維持や職員の確保を図ることにより、市民が安心して暮らしていくための体制確保に努めてまいります。

2点目の1つ目につきましては、子供たちの教育環境が、よりよくなるような学校の在り方の構想案を検討する中で、今後の方針を示してまいります。

2つ目につきましては、昨年度定めた「保育園等の適正配置と民営化に関する方針」に基づき、取り組んでまいります。

3つ目につきましては、社会教育団体及び学校部活動が連携し、将来にわたり、子供たちがスポーツ・文化芸術活動に取り組んでいける体制づくりを進めております。

4つ目につきましては、子供たちの学びや成長を第一に考え、中学校区単位を核として教育力を高め、その地域の専門的知見を持つ人材や企業の参画を取り入れることにより、質の高い教育環境の整備を進めてまいります。

5つ目につきましては、現計画での建物建設は中止し、汎用性のある利活用案を再検討いたします。

6つ目につきましては、屋内遊戯施設は必要であると捉えており、既存施設の利用を含めて、早急に実現したいと考えております。

3点目の1つ目につきましては、生産基盤の整備促進やスマート技術の導入など、生産性向上の取組を支援し、所得の向上と担い手の確保を図ってまいります。

2つ目につきましては、関係機関との情報共有を図りながら、国の動向を注視してまいります。

3つ目につきましては、観光資源の掘り起こしや磨き上げを行うとともに、観光事業者とのつながりを強化し、「訪れる観光・稼げる観光」を推進してまいります。

4つ目につきましては、生産者の皆様と協議してまいります。

4点目の1つ目につきましては、周辺観光地との連携を図りながら、雪月花やラッピング列車など、鉄道を観光コンテンツの一つとして捉え、誘客拡大に努めてまいります。

また、ターミナル駅の機能として、駅周辺観光の充実や二次交通の確保を図ってまいります。

2つ目につきましては、事業者間連携など企業の新たなチャレンジが従業員や顧客満足度を高め、地元地域や経済の持続的な発展に寄与するものと捉えております。

あわせて、観光資源の掘り起こしや磨き上げなど、地域の魅力やポテンシャルを最大限に引き出すことが交流人口の増加につながるものと考えております。

3つ目につきましては、美山公園のポテンシャルを生かし、人が集うための機能面の再開発を進め、にぎわいを創出してまいります。

また、長期間未利用の状態にある公共施設については、民間等への売却や貸付などを進めてまいります。

4つ目につきましては、ベニズワイガニやアンコウなどの魚介類を中心とした水産のまちとしてブラッシュアップするとともに、相撲のまちとも関連づけて、さらに拡充してまいります。

5つ目につきましては、施設の構想について、関係団体と意見交換してまいります。

6つ目につきましては、ピアパーク施設の計画的な更新やイベントの充実などにより、全国的にも知名度のある親不知の活用を図ってまいります。

7つ目につきましては、地域経済の基盤を支える重要な機能として、企業における既存事業の発展や新たな取組への支援等、経済活動の推進、充実を図ってまいります。

5点目の1つ目につきましては、県の地震被害想定調査によると、建物は上越地域全体で5万棟以上が全壊するとされていることから、地域防災計画に基づき、災害予防と災害応急対策を進めてまいります。

2つ目につきましては、河川の改修、治水施設の整備、緊急時の住民への情報提供、防災気象情報を活用した早めの行動などが重要と考えております。

3つ目につきましては、他の地方公共団体と相互に連携、協力し、速やかな災害対応に努めております。

6点目の1つ目につきましては、地元住民や現在の委託先事業者の意向を確認しながら、まずは、採算性を考える中で健全な運営となるよう努めてまいります。

2つ目につきましては、在り方について検討を進めてきており、今後、関係事業者と協議を進めてまいります。

3つ目につきましては、別施設への移転も含めて検討を進めております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

2回目の質問をお願いしたいと思います。

まず、医療についての現状なんですけど、日本の病院の約7割が赤字で、年々増えております。全国1,700の病院で、去年6月から11月の経営状況によると、2年に1回の見直しの診療報酬は、2024年度では0.12%の引下げによる減。また、物価高での支出が増えており、2023年6月から11月、2024年の6月から11月の比較で、医療材料費が4.4%の増、それから人件費で4.3%の増、それから受託費で4.3%の増となっており、やはり厳しい状況が分かります。

また近年、緊急救急患者が、特に高齢者の方が多く、独り暮らしの方、また、持病のお持ちの方、退院できず高齢のため、手術もできない状況になっております。病院側も収益的には厳しく、入院も日数がかかるため、日数が増すごとに報酬が下がり、経営が難しくなっているという状況になっております。政府も今後、高齢化施設の併用も考えているようですが、まず、仕組みを変えていかなくてはならないと思いますし、高齢化社会を迎え、広い医療圏で自治体の枠を超えて協力し合い、また、新しいスタイルで、これまでの仕組みや慣習を見直して、病院同士の経営協力は大切になると思います。

そこで、まず、久保田市長に医療・福祉の考え方をお聞きしたいんですが、①の糸魚川市の医療体制ですね、今後、診療所、個人病院がありますが、特に開業医ですね、開業医の方で年齢的に高齢化している方がおられます。令和4年で、70歳以上の方が3名おられました。それから令和9年には11名になり、閉院していくところもあります。今後10年、20年先を見通したときに、医療体制をどのように見ているか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

市内の開業医の先生方の年齢のことにつきましては、以前からも問題視をさせていただいておりまして、これからどんどん閉院が進んでいくのは、目に見えている状況でございます。

そんな中で、その状況をどう打開するかということになると、やはり糸魚川総合病院が今以上に必要になってきて、かかりつけ医機能を担っていただく。私ども、市のほうで直営で運営しております国保診療所においても、さらに今以上の診療体制が必要になってくるということを想定しておりまして、さらには、10年後、20年後を見据えた中では、都会の医師の方とオンラインでつなぐオンライン診療みたいなものの導入も検討していかなければいけないというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

しっかりした10年後、20年後の医療体制を確保していくように計画してもらいたいと思います。

それから次に、2番の厚生連糸魚川総合病院が担っていくということで、しかし今、大変な赤字を抱えております。主な原因として、人口減少、受診行動の変化、また、診療報酬の改定による患者数の減少、それから報酬の引下げが、特に大きく影響しております。糸魚川市も財政支援をし、県と一緒に実施しましたが、その後の糸魚川市の糸魚川総合病院の改善が進んでいるか、ちょっとお伺いしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

まず、以前にずっとお答えしてきておりますが、今現在、厚生連ばかりではなくて、県立病院であったり、先日、新潟市内の新潟市民病院の経営状況も新聞報道されておりました。非常に医療機関の経営状況というのは、最悪に悪くなっております。

それで、その中で厚生連が特別悪いわけではなくて、医療機関の収支全体が悪くなっている状況でございまして、その中で糸魚川総合病院につきましては、JA新潟厚生連が、本部が中心となって、全体の経営の見直しを行うとともに、糸魚川総合病院は独自で、また改善を図っていただいておりますし、その内容については、私どもと随時、協議をしていただきながら進めていただいている状況でございまして、現在進行形で進んでいる状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

糸魚川総合病院の経営改善の中で上げられている長期的対策として、運営主体の在り方、行政と協議があり、その中で指定管理移行と運営の見直しなどの内容の話がありますが、この話合いは進んでいるか、どうなっているか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

指定管理ということですが、結局、公設化をしてということになります。それで、その考え方については、全くないわけではなくて、運営主体がどうなるかということは考えていかなければいけないと思っています。今現在は、JA新潟厚生連が糸魚川総合病院を運営していただいておりますので、まずは、その運営を支えることを市としてやらせていただいておりますし、将来的にそれ

が立ち行かなくなるということを想定した場合に、公設化して、指定管理に移行していくということも並行して検討していかなければいけない問題だというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

両方の面で、絶対なくならせないようにお願いしたいというふうに思っております。

それから、もう一つ、3番目の県の医療構想ですね、同じく県立病院も令和6年度決算では、全体として46億円の赤字、当初の見込みより、さらに2.7億円の悪化となりました。上越市の中央病院では3億3,000万の赤字、令和7年度以降の内部留保の枯渇のおそれもあり、7年度は26億円の改善が必要で、8年度には、さらに16億円の改善が必要となる見通しが出ております。大変厳しい状況の中、昨年度、話合いがスタートしました上越医療圏の中期再編素案議論は、前に進んでいけるのか。また、これが合意できるのか、その辺を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

中期再編の議論につきましては、上越圏域の中核病院をどこにするという方向性を定めるということが、前年度の末に示される予定でございましたが、県の意向で先延ばしとなっておりまして、今年の秋にその方向性を出し、年度末には様々な調整を経て、公表したいというスケジュール感になっております。

そんな中で、それが本当にまとめられるのかということだと思うんですけども、今現在、県立病院の経営状況が、こないだ示された、先ほど議員おっしゃったとおり、マイナス46億円ですかね、赤字ということでございまして、かなり知事のほうもそこに危機感を持っておられて、この圏域でいいますと県立中央病院が、地域の3次救急を担っていただいているわけなので、そこをどう運営していくのかというところが非常に大きな争点になっていくと思われまして。そんなところを調整しながら、何とか早期に方向性を見いだしていただきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

中央病院が、緊急の一番この上越では大事な病院と思っていますので、その辺の進め方を、ぜひ前に進めていってもらいたいというふうに思っております。

それから、次の4番目の福祉において、市内の特別養護老人ホームの運営状況ですが、大変厳しい状況になっております。職員の給与や最低賃金のアップしたにもかかわらず、この物価高に見合

った報酬になっておらず、人件費を含め、支出が増大している状況です。さらに、職員の年齢構成が上がっており、また、新人が入らない施設も今回ありました。市としても今後のために、人材の確保、またさらに施設の支援をお願いしたいのですが、その市のお考えをお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

まず、人材確保というところでございますけれども、市では様々な事業を行っております。例として、修学資金の貸与、介護職員への応援メッセージ、あとは資格取得や研修の補助、それらに加えて、中学校への出張授業ということも行っております。こういった事業につきまして、有効に活用していただけるようにしっかりと周知をしまして、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

もう一つの施設の支援という部分でございますけれども、こちらのほうは、緊急措置ということで、国の補正予算による物価高騰対策事業、こちらのほう、国と県、市のほうでそれぞれメニューを持っておりまして、取り組んでいるところなんですけれども、こういった取組に比して、物価高、そして人件費の高騰等が非常にスピーディーでありまして、なかなか報酬改定も含めて追いつかないというような状況がございます。

そういった状況の中から、私どもとしましては、抜本的な介護報酬の改定というものが要というふうに考えておりまして、国・県のほうに要望というところで、主に市長会等を通じまして要望活動を続けてまいっておるようなところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

少し補足をして、お答えさせていただきます。

診療報酬につきましては2年に1回、それから介護報酬については3年に1回ということで、公定価格ということで国のほうで単価を定められるわけですが、これに比して、やはり今、物価高騰ですとか人件費の部分が上がって、このままですと本当に経営が苦しくなる病院や介護施設、それから場合によっては破綻してしまう施設もあるかもしれません。

そういったことで、この2年、3年待っては、やはり駄目だということで、糸魚川市のほうからも緊急要望として、緊急に改定できるような報酬をお願いしたいということで、新潟県の市長会のほうに出しまして、これが今、北信越市長会のほうに上がっております。恐らく、ほかの自治体も同じような状況で要望されている部分もあるかと思うので、これは国に上がっていくことになると思います。そういった中で、私ども、またこの部分を強く国のほうに改めて要望する中で、医療・福祉を守っていききたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

前回も市民厚生常任委員会のほうでも、特別養護老人ホームの件もありました。その中で2社が厳しい状況、かなり厳しい状況と聞いておりますので、ぜひ早めの対応を国・県にお願いしたいというふうに思います。

医療・福祉の最後になりますが、市民の方で健康で医療機関にかからないことが一番と思います。市も昨年3月に第3次健康いといがわ21が作成され、5月に概要版が配付されました。地域社会全体で健康づくりについて取り組み、健康寿命の延伸と不健康期間の短縮を目標として、そのきっかけづくりが必要だと思います。市でも進めてもらいたいというふうに思っております。

それから、また同じく県も県民健康づくりに向けた計画改定、全ての世代が生き生きと暮らせることができる健康立県を目指し、健康寿命を延ばすことを勧めています。ぜひ健康診断、また、健康診断のその後の2次検診の確実な診断を進めてもらいたいというふうに思っております。食生活の改善、歩く運動をぜひ市も一緒になって進めてもらいたいというふうに思います。よろしくお願いします。

次に、教育です。

まず、市長にお聞きしたいんですが、①の小学校再編で、今現在、私どもの学校区の中でもそうなんですが、複式学級の小学校があります。こちらの学級は、二つの学級を併せて16人以下となる場合、編成した学級を一つの教室で1人の先生から同時に授業を受け、一方が受けている間、もう一方の学年は自主課題をする。担任が2つの学年の授業を行うことができないので、児童の学習理解では分かりづらかったり、授業中の様子が把握できなかったりすることもあります。

また、5月にもありましたが、運動会、また音楽会などは、種目等の制約が出てきたり、評価が固定化されたり、さらに親のPTA活動では負担が大きくなっている、今現状になっております。

今後、私の考えなんですが、小規模校は、小中一貫校に向けて進めるべきだというふうに思っております。義務教育の9年を、児童生徒、学校、地域の実情を踏まえた上、具体的な取組内容で質を高めることができると思います。

県内では、特色ある学校も出てきており、湯沢町にある湯沢学園が、同一施設で保育園、小学校、中学校の一貫教育を行っております。こちらは、県外、それから海外からも入学者がいる現状で、それこそ0歳から18歳までの一貫教育にふさわしいというふうに思っております。これを踏まえて、市長のお考えをお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えさせていただきます。

ご指摘にありましたように、複式学級の学校というのは、糸魚川市にかなり数がございます。そ

ういった中で、ご指摘のような点があることは否めないかと思っております。

ただ、複式学級の学校でも、様々な工夫により、充実した教育活動が行われているというふうに認識しております。

ただ今後、学校の在り方の検討をしていく中で、ご指摘にありましたような小中一貫校も視野に含めて、今後、検討していきたいというふうに考えておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

再編もあれですね、検討していきたいという考えなんですけど、どの辺、何年度ぐらいを目安にやっていきたいというふうに思っているのか、その辺ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えさせていただきます。

年度につきましては、明確にこの年度までというところについては、まだ決まっておりません。今後、議論を進めていく中で様々な要素を考慮しながら、検討していきたいというふうに考えておるところです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

能生の現状を言いますと、能生小、かなり老朽化しております。見てのとおり、外壁もかなり汚れておりますし、前回の地震で一部使えないところもあるというふうに思います。

それから、私どもの中能生小学校も、壁がひびが入ってたりしておりますので、その辺を考えた上、また、生徒の人数もかなり少なくなっております。次に述べますが、人数の問題もありますし、その辺早急にやっぱり考えて、計画立ててもらわないと、親御さんたちも不安でしようがなく思っておりますので、ぜひお願いしたいと思います。

次に、教育長にお聞きしたいんですが、学校再編で第3次糸魚川総合計画、令和4年から令和10年では、学校の最適配置・方針を検討するとありますが、少子化により児童生徒の減少は進んで、令和5年度の資料では、今後、令和7年から令和10年では1,964人、約、今の300人近い人数の減となります。小学校の適正規模・適正配置が早急に求められますし、これまで地域と共に進めていくと聞いておりましたが、地域も大事なんですが、地域と連動した活動を通じて、放課後だけ、移動した場合、一緒になった場合、空いた校舎で放課後だけ宿題、予習・復習、また運動できる場所として見守り、地域の方が見守り、保護者が安心して働くことのできる環境として、空き校舎を使用して、お互いよい環境になると思いますが、教育長の考え、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

 蘆本教育長。 〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

 お答えいたします。

 子供たちの学ぶ環境、大変大事でございまして、より質の高い糸魚川市らしい教育の在り方、学校の在り方について、昨年度から鋭意努力しながら熟議を重ねています。その最中でございますけれども、今ほど議員さんおっしゃったような形でもって、保護者の心配度、あるいは子供はこの環境でいいのかというふうな部分のところも、相当私どもも、事務局として危機感を持ちながら、真剣に今検討中でございます。

 そして、今ほどご指摘のありましたように、並行して、一つの学校に行ったとして、その空いた学校をどういうふうにご利用するのかというふうなご指摘だろうというふうに思ってます。

 学校というのは、地域にとってやっぱりいろんな機能を持った環境でございます。特に子供たちの学びであり、防災の拠点であり、あるいは人が集う、そして交流するという多機能のものを持っているのが学校です。ですから、地域のよりどころ、地域コミュニティのよりどころが学校でございます。例えば事情があって閉校したという形になってきますという、その空き学校を地域として、地域のコミュニティとして、どういうふうにご利用していくのかということが、やっぱり学校整備、再配置の検討と同時にこれは考えていかなきゃいけないというふうな大事な課題だと思います。ですから、今ほど学校の再編につきましても、熟議を重ねていきますけれども、これは、ある程度のビジョンができた段階で、その空き校舎の活用についても、地域の皆さん方と、やっぱり地域ぐるみで考えていくというふうな部分の中に、今ほどの具体的な子供たちが学校から帰ってきたときに、地域のよりどころだった学校の一部を利用して、遊んだり学習したり、夕方までそこに安心していただけるという場所づくりみたいなものについても、やっぱりこれは地域の皆さん方との合意形成の中で、そういった部分の在り方というふうな部分のところは整理されていくんだろうというふうに思ってます。大変ご貴重なご意見だろうというふうに私は思ってます。

 以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

 利根川議員。

○6番（利根川 正君）

 ぜひとも早急にお願いしたいというふうに思います。よろしくお願いします。

 次に、2の保育園の問題です。

 少子化は、推計より15年も早くなっております。先月、2024年度の統計結果が出ましたが、市の保育園の公立民営化適正配置について、行政と保育園、保護者との懇談会を実施して、民営化に関するサウンディング市場調査を実施しました。7年度中にモデル園を決めたい方向でいると思いますが、スケジュール的にどのように進んでいるかをお伺いしたいというふうに思います。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

昨年末に園の適正配置と民営化に関する方針ということで、議会のほうにもお示しをする中で定めさせていただきました。その後の取組といたしまして、保護者懇談会ということで1月から始めさせていただきまして、全ての公立園の保護者を対象に、また、私立園のほうもご希望のあった園を対象にということで、大半の園からご希望いただいたんですが、ご説明をさせていただきまして、この5月までの間で実施をさせていただいているところでございます。

また、公立園の保育士に対しても、現状の説明等をさせていただいているといったところでございます。

あと一方で、2月には、公立園の民営化に当たりまして、運営を引き受けていただけるかどうかということのサウンディング調査も実施をさせていただいたところでございます。3つの法人、3つの、3者の方からお問合せをいただきまして、意見交換等もさせていただきました。

そういった状況を踏まえて、今年度は、民営化を実施する園のほうを明示させていただきまして、運営事業者の募集ですとか、そういった説明に入っていきたいというふうに考えているところでございまして、本定例会の所管の常任委員会のほうにもこういった状況はご説明をさせていただく中で、取組を進めていきたいと考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

ぜひともよろしくお願いします。

今現在、小規模園の保育園では、運営に関する保育に支障が来するような状況であり、保育士、また看護師、また確保が難しくなっております。特に最近、特別に支援がいる園児などが増えてきております。現状をよく見てもらい、対策をお願いしたいというふうに思います。よろしくお願いします。

次に、部活動の地域移行の件ですね。

少子化が進む中、今後、部活動の集約化が求められていますし、何といたっても送迎の確立が大事だと思っております。それから、指導者として、公務員の副業による支援も進めていかななくてはならないと思いますが、この部活動の地域移行の考えをもう一度お伺いしたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

部活動の地域移行につきましては、様々な問題がございます。活動場所、送迎手段、指導者の確

保も大きな問題の一つと捉えております。これらの課題につきましては、外部委員で組織します部活動の地域移行に係る検討委員会のご意見も聞きながら、今後、検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

この検討は、25年度中で決めるというふうな考えでよろしいのでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

今年度、令和7年度までが準備期間ということで、来年度、令和8年度からは、休日のみ実施ということを目指しております。最終的には、令和11年から休日及び平日を含めた中での完全なる地域移行を予定しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

ありがとうございました。

次に、④の質の高い教育体制。

市長は、校長だった立場から、市内の3校、3つの高校に中学生が卒業して、進学してもらうためにはどうしたらいいか、考えがあればお聞かせください。今現在、上越の高校や私立高校へ行っている状況がかなり目立っておりますので、糸魚川に入学してもらうためには、どのようにしたらいいか、市長の考えをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

冒頭申しましたとおり、まず、中学校区単位の、まず、今4つの中学校区があるんですが、そこからやっぱり市内の高校に入学できるような流れをつくるという部分においては、努力目標としては相当高い目標になると思います。キャリアフェスティバル等で中学校の意識醸成をしておりますけども、逆に言えば、今、利根川議員ご指摘のように、高校にその魅力を感じなければ、やっぱり市外に流れていきますので、まず、その魅力ある高校づくりをしなければならない。やっぱりまず、今現在ある3高校についての魅力づくりについては、海洋高校については、当時からも魅力ある高校づくりで県外からの入学生が多い。ただ、市内の入学生が少ない。そういう逆のパターンもあります。

糸魚川高校と糸魚川白嶺高校については、やっぱり地元志向の生徒が入学してきている中において、今度はじゃ、地元志向の生徒たちの、まず学力の向上を考えなきゃいけない。今、先ほどから問題になっている医療人材に進学できるようなカリキュラムづくりをしなければならない。そのためには、さらに進めていくためには、やっぱり再編の問題も必ず出てくると思います。再編の問題があったときに、何を考えなきゃならんのかというと、やっぱり海洋高校のように、全国から募集できるような入学制度を県教育委員会にやっぱりつなげていかなきゃならない。それも一つの材料だと思います。それで、県外からの入学生が若干出てくると、やっぱり市内の生徒たちも、それならば自分たちがという思いを持ってくる。それでモチベーションを高めていくということも大事なことだと思います。

今、3高校は、本当に特色ある学校づくり、学校の教育魅力化コーディネーターを入れて、対応しています。まだまだそれが実になっていない部分も幾つかあると思うんですけども、それなりの努力を通じて、今現在、徐々にそういう傾向は高まってきております。

ところが、糸魚川白嶺高校においては、地元企業とのタイアップによって、できる限り地元企業との連携を深めていくという部分もしっかりと取り組んでいる。それと防災教育も取り組んでいる。地域の実態に合わせたカリキュラムを組めることによって、徐々に魅力が高まっていくものと思っています。

そういう中で、3高校の、これからますます我々が関与していくということも必要になってくると思いますので、そこに、できる限り入学生を多くしていく。そして盛り上げていくということをやっていききたいなと思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

3高校の中で白嶺高校が、入学が下回った、倍率が下回っていることで、今年もなっておりますが、何としても倍率上げてもらうように市内の方を中心に入学してもらうように働きかけてもらいたいというふうに思います。

次に、⑤の駅北子育て支援複合施設です。

市長言われましたが、建設を見送ることとするということを発表されました。この計画の基本理念には、ひとみかがやく 子と親が遊んで学べる場所、糸魚川大火から復興を見据えた中心街ににぎわいをつくり、駅北地区において遊びと学びの場を、また、活動する場、子供がわくわくする遊び場、親が安心して気軽に交流できる場所、多世代の地域交流の場づくりとして、目指しますとあります。

ここには、子育て支援センター、交流のきっかけや悩み相談ができる場所、また、プレイルーム、遊戯場、安心して子供が遊べる場所、市民ギャラリー、学習スペース、図書コーナー、会議室が予定されておりました。令和2年、駅北まちづくり戦略策定から始まり、先月の令和7年5月まで、それに向かって多くの方が動いてまいりました。期待していた方もいました。子育て世代、祖父母、保育園の方々、高校生、それぞれの思いがあり、ここまで来ましたが、また、市の職員も大変苦労

されてきたと思います。今回、見送りは本当に大きな決断だと思います。今後、見送ることとした説明が早急に求められると思いますが、市長、考え、早急に説明ができるか。市長の考えをお伺いしたいと思います。いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

先ほど保坂議員のときにもお答えしましたとおり、まず、汎用性の高いという部分から、再整備の計画を持っていくのと、今、利根川議員がおっしゃったように、多世代というようなニュアンスになると、やっぱり当初のまちづくりと連結しなきゃならない。

ただ、あの部分の中で多世代まで求めていくと、相当機能的には、多くの機能が入らないといけない。今、ゼロ歳から18歳までのニーズを持っていくと、あそこにすごくいろんな要素を持ったものを入れなきゃいけないんですけども、多分その機能まで全部網羅できるというふうな計画ではないというふうに判断しております。そのためには、見直して、再計画の中においてそういうものを、駅北の中に分散をして置くとか、流動性を生かすとかという汎用性のある拠点にしていくということ考えた中で対応していくという部分、そういう意味合いを持って申し上げているというふうに、私自身考えているんですけども。いわゆる一つの子育て支援、ゼロ歳から小学校入学までとは別に切り離していくのであれば、それ相応の機能が、複合的な部分が必要になってくるだろうというふうに感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

保坂議員の質問にちょっとかぶるんですが、市長は、解体後、解体は進めなくてはならないというふうに思っております。解体後、そこに新たに建てる予定なのか、建物を建てる予定なのか、その辺ははっきり分かるでしょうか。考えは、もうお持ちでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、解体というものを最優先にしておいて、その空いた部分において、まず一旦、解体した跡地についての、やっぱりよりどころのある汎用性の高いものとしての土地活用を考えていきたい。別途計画において、そういう建築物が必要な場合には、そういうものを次の、別の事業立てをして、やっぱり計画しなければならないというふうに思っています。それにはいろんな、これから早急に進めていく、やっぱり今必要な子育て世代の皆さんへの提供できる既存施設を利用する中において、

いろんなものを考えながら、さらにそういう施設が必要であれば、それを持ってやっぱり計画していかなきゃいけないというふうに感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

これもまた、保坂議員の質問のあれなんですけど、市長は、まず、DBO方式を見直すと言われました。それで、地域が受け入れられるためには、市長は、クリニックの機能を持っているやつを入れたらよい。また商業施設を入れる。また産後ケアの重度心身障害者の方が入れる場所を入れるとか、それでしたら考えられるということでありましたが、逆に、その施設が可能であった場合には、今後、建てる、駅北になるんですが、建てる予定はあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

先ほどの答弁において言えば、例えばという形でお話ししたと思います、例えばという形で。例えばそういうクリニックを入れるということは、要は産後ケアの問題から、次のやっぱり幼児保育の問題、いろんな多様化している生徒をそこで面倒を、観察できる、診断できるというふうな機能が持ち備えていれば、そういう、ゼロ歳からの部分からスタートできる。スタートアップできるという部分で、例えばということでお話しさせていただきました。

ただ、例えばの話で進めるとなると、ドクターまでとなると、先の今度交渉が、また別途絡んできますので、非常に難題を持ってやる。ただ、できない理由を持って進みたくない。できる限り可能になるように持っていきたい。やっぱり人、物、そして金というものがセットになって施設というのはあるもんですから、そういう部分は無視できないものでありますので、例えばの話の中で出てきた部分でご理解をしていただきたい。

ただ、やっぱり理想的な部分もありますので、いろんな保護者、本当の利用している子供たちのニーズ、そういうものはきちんと聞き取りをしていくための移行処置、施行していくということをトライしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

次に、今回、全員協議会がありました。その資料の中で、屋内遊戯施設を空き家、空き店舗といった既存施設を活用して模索するとしていますが、子育て支援センターと屋内遊戯場施設は、一体と考えていいのか。市内の既存施設、空き家・空き店舗等の活用とありますが、市の施設では駄目なんですか。例えば今井小学校の体育館とか、旧木浦小学校、旧浦本小学校、また、能生のマリンホールなど、こちらを活用するわけにいかないでしょうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

まず、前段の屋内遊戯施設と支援センターと一体、一緒かというところにつきましては、基本的には、これまで屋内遊戯施設が必要であるという部分の認識で、さらに利便性向上という意味での支援センターの移設というところで、併せて考えてきておりましたので、ある意味一体的ではあるんですが、そういった空き店舗とか、そういった既存施設の状況によりまして、そういったものは一緒にできるかどうかというところは、今後、検討していくことになると思っております。

また、市の施設ということで、今ほどご提案いただいた部分もございますけれども、例えば旧今井小学校の体育館につきましては、耐震化がなされておりませんので、今の状態では使えないといったところもありますし、マリンホールとかも、別の文化的な施設として今現在利用されていますので、なかなかすぐには難しいところはあると思っております。学校施設とかは、空き校舎の利活用というのもしっかりと考えていかなければならない部分もあるかと思っておりますので、そういった部分は、今回の検討の中にも含めていけるのではないかなというふうに思っているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

次に、遊戯施設、早期の実現を目指すとありますが、こちらのほうは、時間的にこの冬までには計画できるようなものでしょうか。いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

別の利活用案という、子育て、屋内遊戯施設の移設先でというところでの計画ということでございますけれども、さすがに既存施設の利用ということにあっても、そのまま使える施設というのはなかなかないというふうに思っております。その施設を決めて、一定程度の改修の必要性等も考慮しながら進めていかなければいけないと思っておりますので、なかなかこの12月までというところは、難しいのではないかなというふうに今捉えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

これで教育の最後になりますけれども、秋以降にタウンミーティングを実施して、12月末で国の計画変更を申請するスケジュールになっております。このスケジュールを出す中で、この代替案を出せるのか。今現在、代替案ない中で、12月まで代替案を出せるのかどうか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えをいたします。

代替案ということで、今現在まだお示しはできませんけれども、検討はさせていただいているところでございます。今後、代替案のほうが決まりましたら、議会のほうにもお示しをし、また、ご説明しておりますような市長との懇談会等の中でもご説明をする中で、12月までには国の計画変更が申請できるような形で取組を進めていきたいと考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

私も建設産業常任委員会で4年間やらせてもらって、この子育て支援施設に関してやってきましたが、本当に残念というふうに思っております。ぜひ今後、皆さんに納得してもらうように説明のほう、よろしくお願ひしたいというふうに思っております。

次、（3）の1番の一次産業の農業ですね。

農家、消費者は、価格の安定を望みます。お互い納得いった価格で、この価格を国が保障すべきだというふうに思っております。農家に利益が残る形で進まないと、ますますこの耕作放棄地が増え、それだけでなく県内では糸魚川だけが作付面積が減っている状況で、兼業農家の多くが、機械設備も投資にかなり金額になっております。例えばトラクター、田植機、コンバイン、今現在ですと1台当たり400万から、高いので700万ぐらい、1台につき車が買えるぐらいな農機具になっております。これは、大規模化に方向転換してから大型化という形になっております。そのためにJAに頼りざるを得ないというふうに中小の農家さんが考えております。かなりハードルが高いですので、米政策を市長はどのように考えているか。価格の面、また、この農業の土地活用に関して考えれば、お伺ひしたいというふうに思っています。いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

米農家の減少は、将来的には今以上のさらなる米不足と米の価格の高騰が懸念されます。国の米

政策につきましては、農家が将来にわたりまして、米の生産活動に意欲が持てるとともに消費者からも納得が得られる販売価格を維持しながら、農業の担い手の確保につながる政策を行うことが必要ではないかというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

この米価格、このまま維持できるように願うところですが、こちらも消費者もいる関係で、政府に期待したいというふうに思っております。

次に、2の高齢者、子育て世帯の件ですが、今現在、安い米が出回っております。備蓄米の出荷で、都市部では販売が、既に売り切れていて、糸魚川市にはなかなか入荷してきておりません。ネット販売でも売切れの状態ですし、東京、大阪などにお客が並んでいる姿をテレビでよく見ますが、地域間格差をなくしてもらうようにしなければならぬと思いますし、糸魚川の大手スーパー、また、同じくC G Cの加盟企業は、来週中にでも備蓄米の販売がスタートするというふうに聞いております。今日は、上越市の北城で販売しているというふうに聞いております。

そちらのスーパーの一方、J Aなどに働きかけて、この備蓄米が入荷できないか、J Aの元であるところが仕入れているわけですから、J Aが販売できないか、この食彩館でも週2回ほどしか販売しておらないので、糸魚川市民に対して30キロの玄米でもいいですので、市内に販売できないか伺いたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

今ほど議員のほうからもお話ございましたように、上越地域のスーパーでも備蓄米のほうが出てきております。

ただ、えちご上越農業協同組合につきましては、報道にもございましたように、2024年米、昨年のお米ですけども、自由に販売できる在庫は、今のところ抱えていないというような状況でございます。

備蓄米につきましても、まだ全農のほうで購入したという実績がありますが、まだこちらのほうまで入ってきていないというような状況でございます。国の備蓄米の処分ということにつきましては、連日報道されておりますが、日進月歩のような状況で動いておりますので、今後も、備蓄米の状況というのは関係機関と協議しながら、動向には注意してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

最後の質問になりますが、子育て世帯、また高齢者に関しまして、他市ではお米券やクーポン券、ガス・水道基本料金3か月徴収しないなど、物価高対策を実施していますが、糸魚川市では物価対策は考えられないか伺いたいと思います。いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

大西企画定住課長。〔企画定住課長 大西 学君登壇〕

○企画定住課長（大西 学君）

お答えいたします。

今ほどご提言の当市独自での物価高騰対策事業につきましては、今の現状では行う予定はございません。

しかし、国でも7月から、電気・ガス料金負担軽減策など、物価対策について事業の実施や検討を進めておりますので、国の動向を注視するとともに、今現在、実際に独自に対策事業を行っている自治体について、研究してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

利根川議員。

○6番（利根川 正君）

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、利根川議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

本日は、これにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでございました。

〈午後3時18分 延会〉